

東海地域の麦をめぐる事情



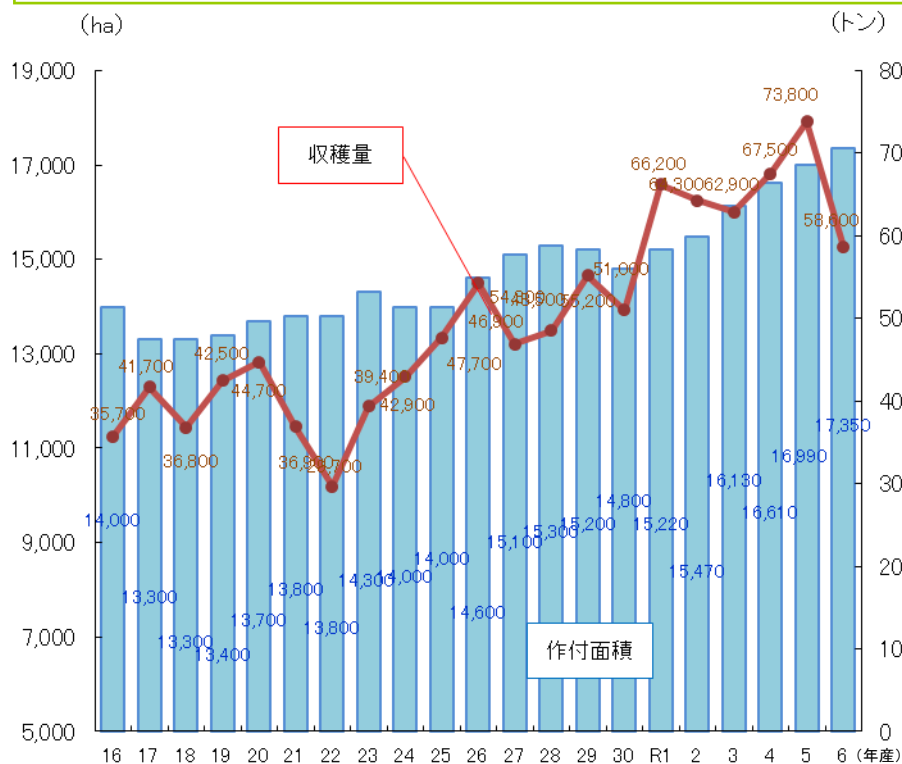
令和7年9月
農林水産省
東海農政局

1 東海地域における麦類の生産状況

① 小麦の作付面積、収穫量及び単収(10a当たり収量)の推移

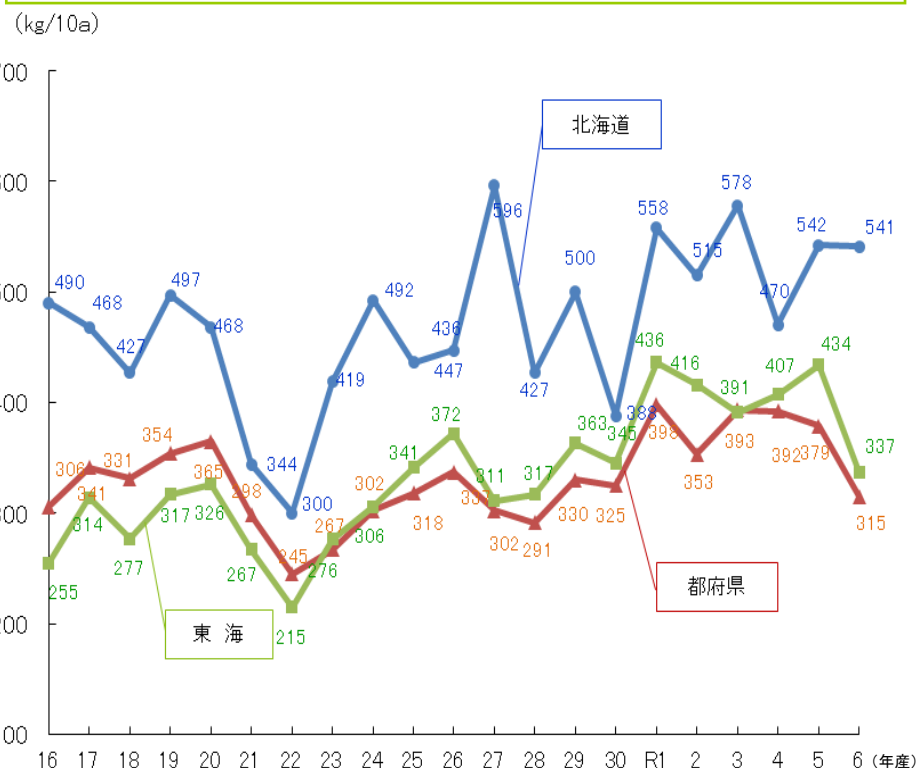
- 東海3県の小麦の作付面積は近年、増加傾向であり、令和6年産の小麦の作付面積は17,350haで、前年産に比べ360ha(2%)増加しており、過去20年間で最大となった。他方、収穫量は天候不順等により、前年産に比べ15,200t(21%)減少し、58,600tとなった。
- 東海3県の令和6年産の小麦の単収は、337kg/10aとなり、前年産に比べ97kg/10a(23%)減少している。

小麦の作付面積及び収穫量の推移(東海3県)



資料: 農林水産省「作物統計」

小麦の単収の推移(北海道・都府県・東海3県)



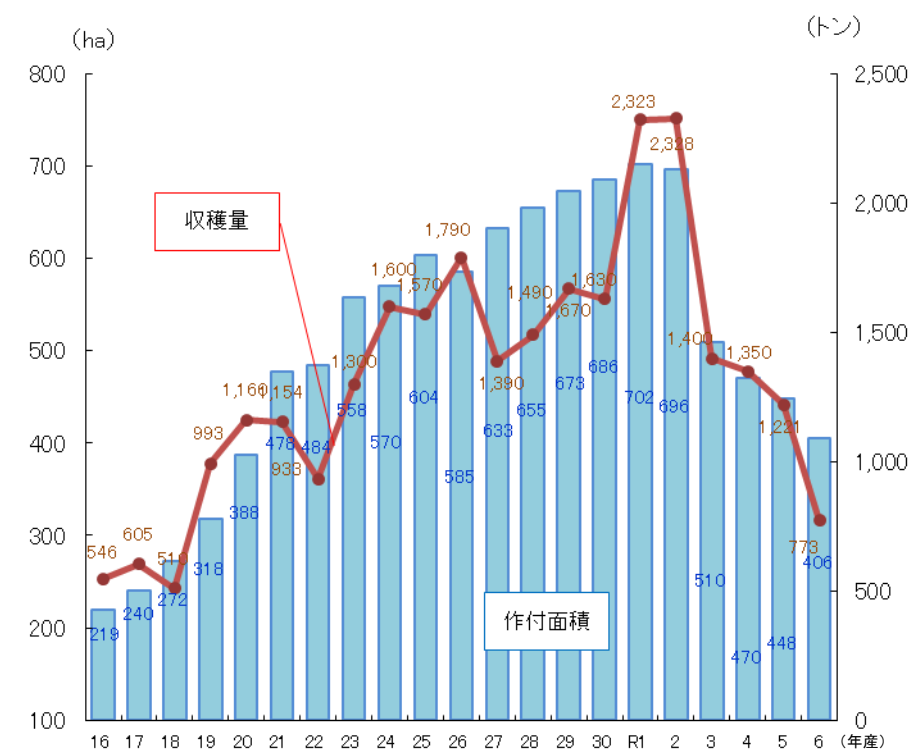
資料: 農林水産省「作物統計」

1 東海地域における麦類の生産状況

② 六条大麦の作付面積、収穫量及び単収(10a当たり収量)の推移

- 東海3県の大麦(六条大麦)は、令和2年産まで作付面積及び収穫量ともに増加傾向で推移していたが、その後、実需の動向を踏まえ、作付面積及び収穫量ともに減少傾向で推移し、令和6年産の作付面積は406ha(令和5年比10%減)、収穫量は天候不順等の影響もあり773t(令和5年比37%減)となった。
- 東海3県の令和6年産の大麦(六条大麦)の単収は、190kg/10aとなり、前年産に比べ82kg/10a(30%)減少している。

六条大麦の作付面積及び収穫量の推移(東海3県)



資料:農林水産省「作物統計」

六条大麦の単収の推移(都府県・東海3県)

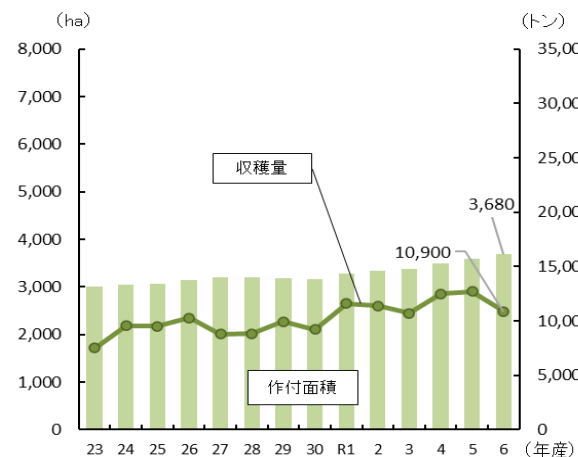


資料:農林水産省「作物統計」

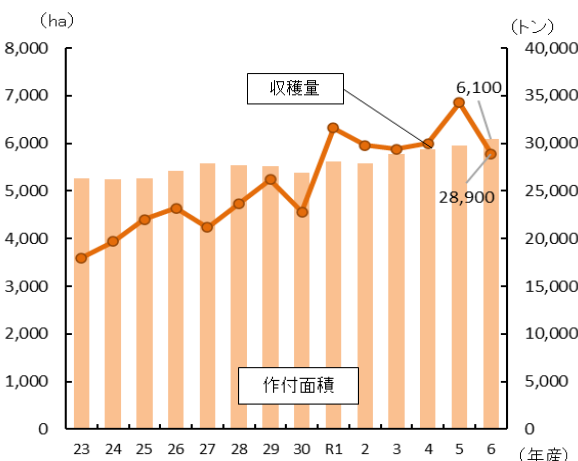
2 小麦の作付面積、収穫量及び単収(10a当たり収量)の推移(県別)

- 作付面積は、三重県では増加傾向で推移しており、岐阜県及び愛知県ではほぼ横ばいで推移している。
- 収穫量及び単収は、近年では大幅な減収があった令和6年産を除くと、愛知県及び三重県で、増加傾向で推移している。特に愛知県では、多収品種への品種転換が行われたこと等により大幅に増加した。

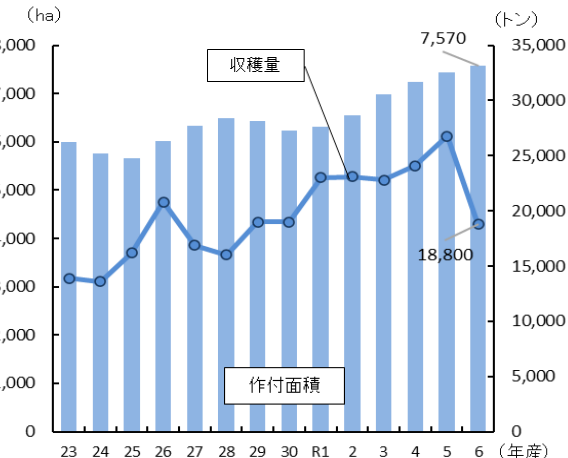
小麦の作付面積及び収穫量の推移(岐阜県)



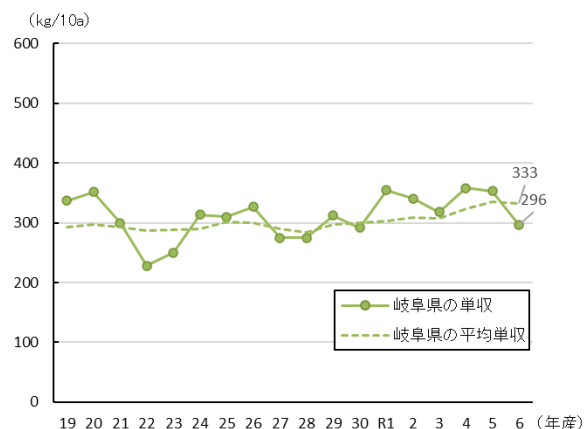
小麦の作付面積及び収穫量の推移(愛知県)



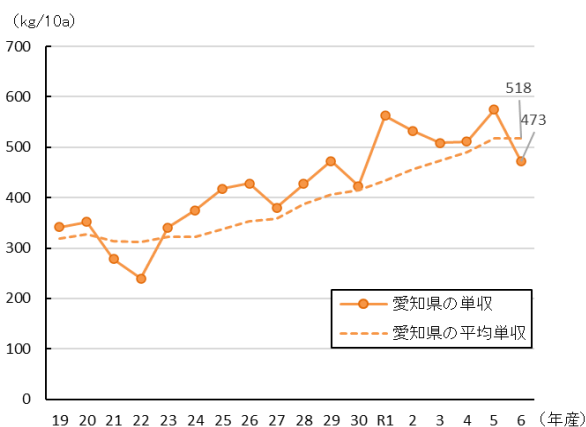
小麦の作付面積及び収穫量の推移(三重県)



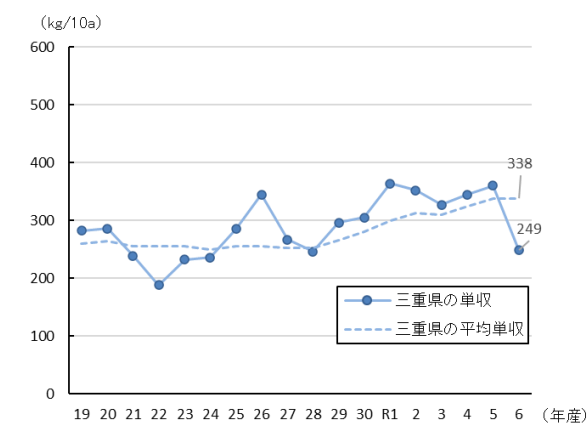
小麦の単収の推移(岐阜県)



小麦の単収の推移(愛知県)



小麦の単収の推移(三重県)



資料: 農林水産省「作物統計」 ※平均単収: 直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値

3 小麦の作付面積、収穫量及び単収の全国における順位

- 東海3県の令和6年産小麦の生産状況における全国順位は、作付面積は三重県4位、愛知県6位、岐阜県12位、収穫量は愛知県4位、三重県8位、岐阜県11位と、作付面積及び収穫量ともに上位に位置している。
- また、令和6年産小麦における単収の全国順位は、愛知県2位（前年度1位）、岐阜県17位（前年度14位）、三重県30位（前年度10位）となっている。

令和6年産 小麦作付面積

順位	都道府県	作付面積	
		(ha)	割合(%)
1	北海道	132,000	56.9
2	福岡	16,400	7.1
3	佐賀	11,900	5.1
4	三重	7,570	3.3
5	滋賀	7,030	3.0
6	愛知	6,100	2.6
⋮			
12	岐阜	3,680	1.6
⋮			
全 国		231,800	－
東 海		17,350	7.5

令和6年産 小麦収穫量

順位	都道府県	収穫量	
		(t)	割合(%)
1	北海道	714,200	69.4
2	福岡	52,800	5.1
3	佐賀	36,200	3.5
4	愛知	28,900	2.8
5	群馬	23,300	2.3
⋮			
8	三重	18,800	1.8
⋮			
11	岐阜	10,900	1.1
⋮			
全 国		1,029,000	－
東 海		58,600	5.7

令和6年産 小麦単収

順位	都道府県	単収
		(kg/10a)
1	北海道	541
2	愛知	473
3	宮城	443
4	群馬	439
5	埼玉	395
⋮		
17	岐阜	296
⋮		
30	三重	249
⋮		
全 国		444
東 海		337

資料：農林水産省「作物統計」

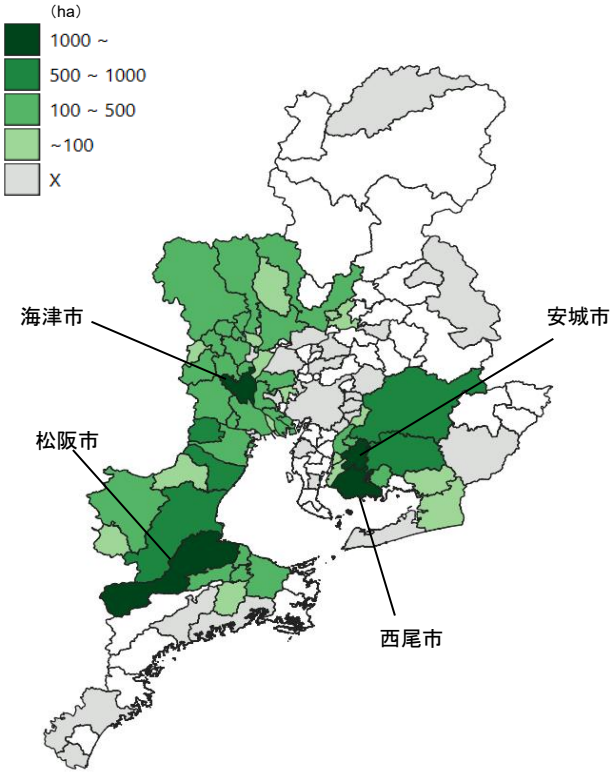
4 東海3県における主な小麦産地(市町村別)

- 岐阜県では海津市、愛知県では西尾市、安城市、三重県では松阪市が1,000ha以上の作付面積となっており、小麦の主産地となっている。
- 東海地域では、稲－麦－大豆の2年3作のブロックローテーションが確立されており、これら地域は大豆の主産地にもなっている。

令和6年産小麦の市町村別生産状況

岐阜県			愛知県			三重県		
市町村名	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	市町村名	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	市町村名	作付面積 (ha)	収穫量 (t)
海津市	1,100	4,500	西尾市	1,270	6,950	松阪市	1,900	5,710
垂井町	258	786	安城市	1,090	5,210	津市	985	2,860
大野町	190	630	豊田市	927	3,790	菰野町	589	1,640
関市	248	602	岡崎市	572	2,400	鈴鹿市	872	1,370
養老町	219	602	弥富市	459	2,210	四日市市	470	1,180
大垣市	256	601	愛西市	346	1,380	伊勢市	353	1,070
輪之内町	176	500	刈谷市	244	1,230	いなべ市	452	967
揖斐川町	267	467	飛島村	175	963	桑名市	305	915
池田町	246	465	幸田町	164	743	伊賀市	438	631
岐阜市	187	415	稲沢市	121	550	東員町	257	630
本巣市	158	397	知立市	107	520	多気町	286	446
神戸町	135	345	豊川市	88	466	明和町	249	445
羽島市	78	238	豊橋市	89	420	木曽岬町	98	340
瑞穂市	49	135	あま市	87	388	玉城町	157	338
富加町	24	48	碧南市	76	346	亀山市	72	181
関ヶ原町	12	41	みよし市	84	322	度会町	18	25
山県市	41	36	高浜市	29	132			
美濃加茂市	13	34						

小麦の市町村別作付状況(令和6年産)



資料：農林水産省「作物統計」

注1: □ は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していない市町村

注2: 空白は小麦を作付していない市町村

5 小麦の経営体数及び作付規模の推移

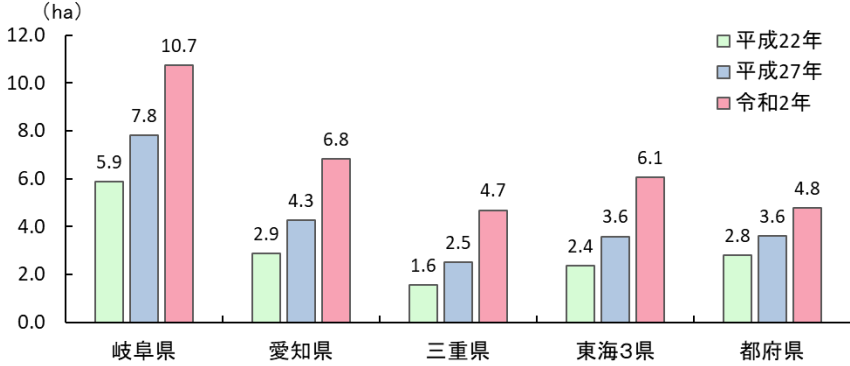
- 東海3県の販売目的で小麦を作付けた経営体は、平成22年から10年間で半減しているが、作付面積は約1.2倍に増加している。
- 東海3県の1経営体当たりの作付面積は10年間で約2.6倍に増加しており、岐阜県及び愛知県で都府県平均を大きく上回っている。また、東海3県では平成22・27年は都府県平均と同程度であったが、令和2年には都府県平均を1.3ha上回った。
- 東海3県における小麦の作付面積が5ha以上の経営体は、平成17年の4%から令和2年の27%へと拡大しており、農地の集積等により経営の規模拡大が進んでいる。

小麦の作付農家数、面積の比較

			平成22年	平成27年	令和2年	R2年/H22年
小麦	岐阜県	作付経営体数(戸)	478	351	272	57%
		作付面積(ha)	2,802	2,737	2,920	104%
		1経営体当たり面積(ha)	5.9	7.8	10.7	183%
	愛知県	作付経営体数(戸)	1,545	1,027	786	51%
		作付面積(ha)	4,449	4,381	5,361	120%
		1経営体当たり面積(ha)	2.9	4.3	6.8	237%
	三重県	作付経営体数(戸)	3,087	2,012	1,349	44%
		作付面積(ha)	4,840	5,046	6,310	130%
		1経営体当たり面積(ha)	1.6	2.5	4.7	298%
	東海3県	作付経営体数(戸)	5,110	3,390	2,407	47%
		作付面積(ha)	12,091	12,164	14,591	121%
		1経営体当たり面積(ha)	2.4	3.6	6.1	256%
	都府県	作付経営体数(戸)	31,637	24,037	18,715	59%
		作付面積(ha)	88,759	86,888	89,485	101%
		1経営体当たり面積(ha)	2.8	3.6	4.8	170%
	全国	作付経営体数(戸)	46,202	37,694	30,976	67%
		作付面積(ha)	202,844	207,149	208,664	103%
		1経営体当たり面積(ha)	4.4	5.5	6.7	153%

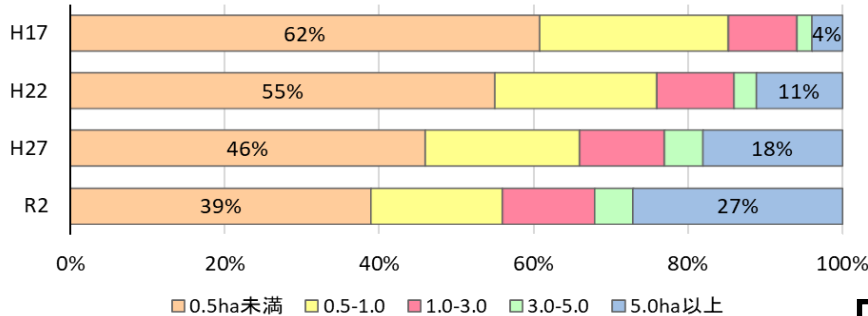
資料:農林水産省「農林業センサス」

1経営体当たり面積の推移



資料:農林水産省「農林業センサス」

経営規模別経営体数(東海3県)

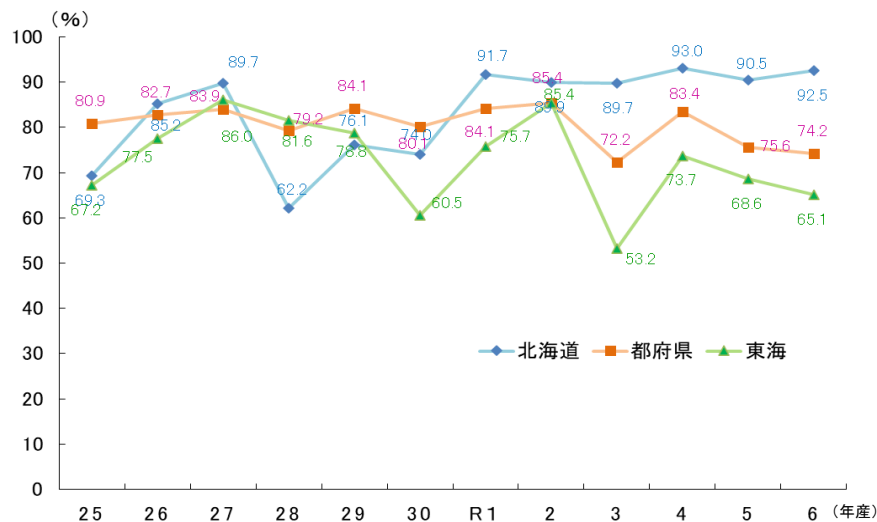


資料:農林水産省「農林業センサス」

6 小麦の品質及び取引価格の推移

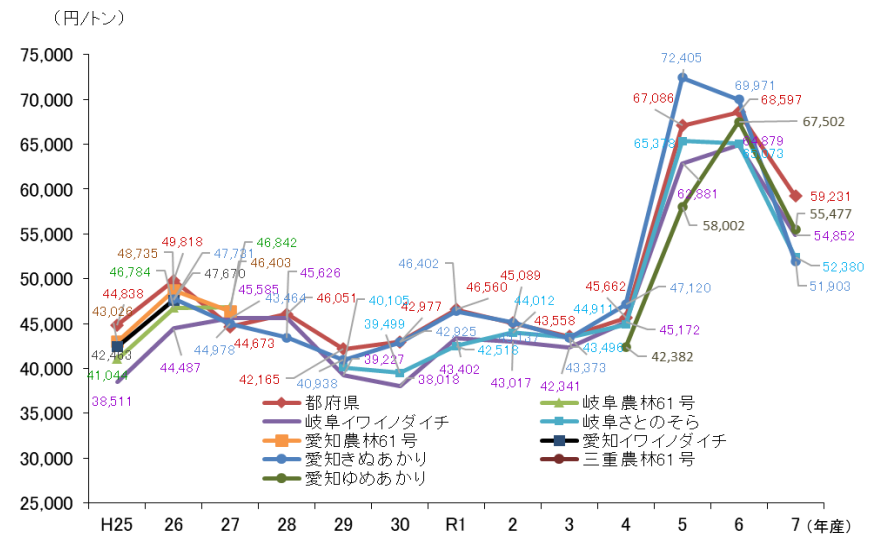
- 東海3県小麦の1等比率は、年産による変動が大きく、天候に恵まれた令和4年産では、73.7%と増加していたが、令和6年産は天候不順等により、65.1%に減少した。
- 東海3県小麦の取引価格は、国際的な麦相場や市場輸入価格の影響を受ける。令和5年産では、米国・カナダ産小麦の不作やウクライナ情勢の変化により高騰したが、直近では米国・カナダ及び豪州産小麦が豊作となったことから、下降傾向にある。

小麦の年産別1等比率の推移(東海3県)



資料:農林水産省調べ

小麦の取引価格の推移

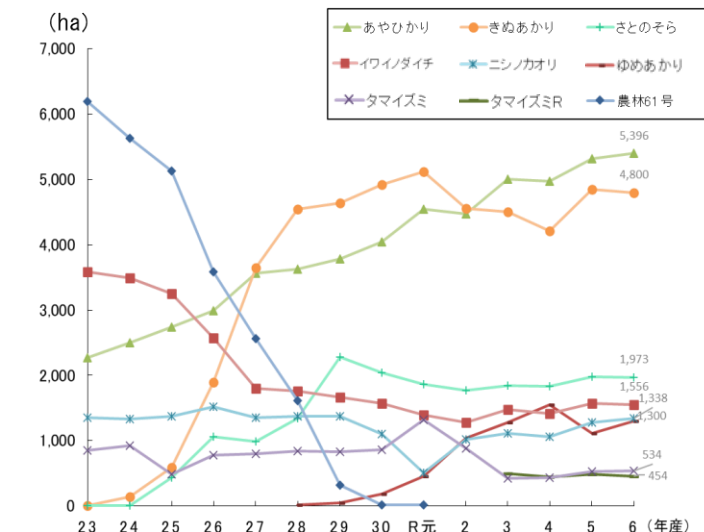


資料:(一社)全国米麦改良協会調べ。ただし、都府県の価格は東海農政局において算出。
注:産地品種銘柄によっては、民間流通麦の取引制度に新たに上場されたもの、又は上場が取り消しになったものがある。

7 優良品種への転換

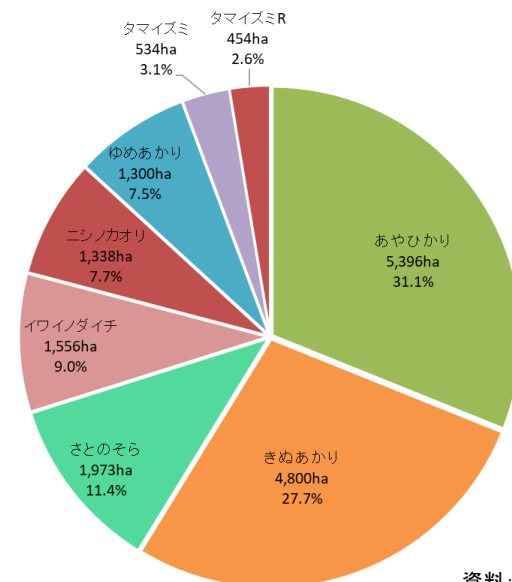
- 東海地域では、かつては主に日本麺用の従来品種である「農林61号」と「イワイノダイチ」が作付されていたが、実需者ニーズに対応するため、品種切替が進められ、「きぬあかり」及び「あやひかり」の作付が拡大した。

東海地域における小麦の品種別作付面積の推移



資料：農林水産省調べ

東海地域における小麦の品種別構成割合
(令和6年産作付面積)



資料：農林水産省調べ

東海地域において生産されている主な品種の特徴

県名	品種名	特徴
岐阜県	さとのそら	早生品種であり、「農林61号」に比べ、短稈で耐倒伏性、耐病性に優れる。 収量は、「農林61号」より10%程度多収。 汎用性の高い通常アミロース含量品種で、粉及び麺色が明るい黄白色。
愛知県	きぬあかり	「農林61号」に比べ、耐湿性及び耐倒伏性に優れ、水田を利用した栽培に適する。 収量は、「農林61号」より20%程度多収。 生地を強くするグルテニンを4種類持ち、アミロース含量がやや少ないため、コシがあり滑らかな麺ができる。
三重県	あやひかり	「農林61号」より2～5日早期収穫が可能であり、縞萎縮病、赤さび病に強い。 多収であり、製粉歩留も高い。 低アミロースであるため、麺が滑らかで食感が良い。

8 品質・単収向上のための技術対策

- 東海3県の小麦は、収穫期が降雨時期にあたることから、品質や収量に振れが大きく、それらの安定が課題となっている。
- 品質向上については、適期・適量の追肥を行うことが重要であることから、土壌分析や葉色の診断に基づいた施肥管理を推進している。
- 収量向上については、麦は湿害に弱いことから、排水対策の取組を推進している。特に水田作では、ほ場に弾丸暗渠等の排水対策の実施が重要となる。

葉色診断の様子

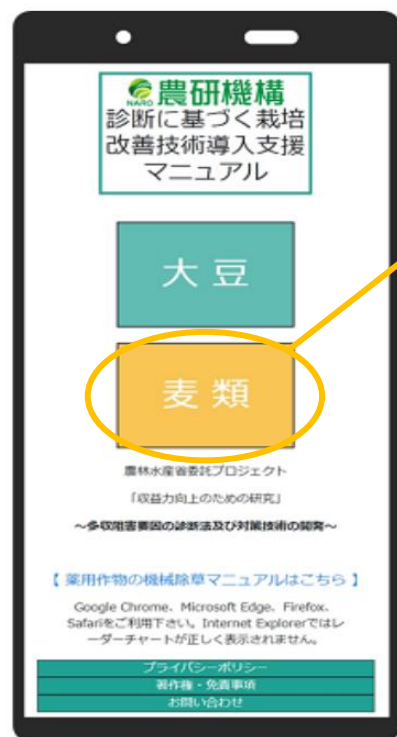


小麦ほ場の弾丸暗渠の施工



(参考1) 診断に基づく栽培改善技術導入支援マニュアル

- 農研機構が「診断に基づく栽培改善技術導入支援マニュアル」を作成し、農研機構のHPに掲載。
- 栽培条件と減収要因との関連について、スマートフォンを用いてユーザーが簡易に診断し、多くの技術情報の中から必要な対策にアクセスすることができる。



生育時期ごとの事例から選ぶ

1. 播種・出芽・苗立ち期編

2. 生育初期～茎伸長期編

3. 出穂期～成熟期編

10道県433筆以上の実態調査の
エビデンスに基づき指標化

生産者自らが圃場ごとに要因を診断

対策技術の処方 & 情報提示

ポイントを解説後、
詳しい情報へのポータルとして利用



圃場条件にあった適切な栽培技術を提示

(参考2) 発育診断予測モデルの事例

- 愛知県・名古屋大学・JAあいち経済連は、発育診断予測モデルに衛星画像や、メッシュ気象情報などを組み合わせた栽培管理を実証済み（H29～R2の4年間）。
- ブロックローテーションの中で、稲作とあわせて、麦作の生育ステージ予測に基づく追肥診断等を一体的に取り組んでいる。

愛知県・JAあいち経済連・名古屋大学

茎立期、出穂期等の生育ステージを予測

生育予測モデル

×

1kmメッシュ気象情報



品種	播種日	播種後経過日 シベリウスー数 布	出穂 期	茎立期 の 予測 期	出穂 期 の 予測 期	出穂 期 の 予測 期	出穂 期 の 予測 期	出穂 期 の 予測 期	出穂 期 の 予測 期	出穂 期 の 予測 期	出穂 期 の 予測 期
10/20	10/20~11/2	11/8	2/15~2/14	11/22	2/14	2/24~3/19	4/3	4/17	5/31	6/3~6/7	
11/5	11/5~11/8	11/13	2/15~2/22	11/29	2/22	3/4~3/22	4/5	4/18	6/2	6/5~6/9	
11/10	11/10~11/13	11/13									
11/15	11/15~11/18	11/18									
11/20	11/20~11/23	11/23									
11/25	11/25~11/28	11/28									
11/30	11/30~12/3	12/3									
12/5	12/5~12/8	12/8									
12/10	12/10~12/13	12/13									
12/15	12/15~12/18	12/18									
12/20	12/20~12/23	12/23									

普及指導員・営農指導員



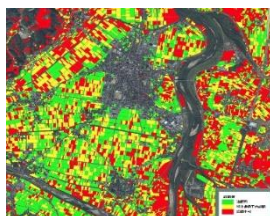
営農指導

生産者



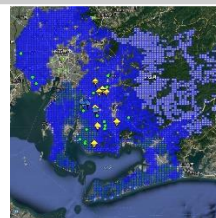
- ・適期追肥
- ・最適な水管理
- ・病害虫の適期防除
- ・適期収穫

追肥診断



衛星画像（NDVI等）に基づく最適追肥量

病害虫発生予測



メッシュ気象に基づく発病リスク分布

適期作業

- ・品質向上・収量向上
- ・省力・低コスト化の実現
- ・農家手取りの向上

【効果】精度の高い生育ステージ予測ができ、栽培指導の役に立つ。

(参考3) 愛知県の小麦生産拡大

- 愛知県では平成13年から自県で小麦育種に取り組み、生産性が高く、実需者と連携した「マーケット・イン育種」により優れた加工適性の新品種を開発。
- 「きぬあかり(日本麺用)」、「ゆめあかり(パン・中華麺用)」の品種能力(生産性、加工適性)を活かした栽培技術を普及し、全国有数の生産性を誇る産地へと進化。

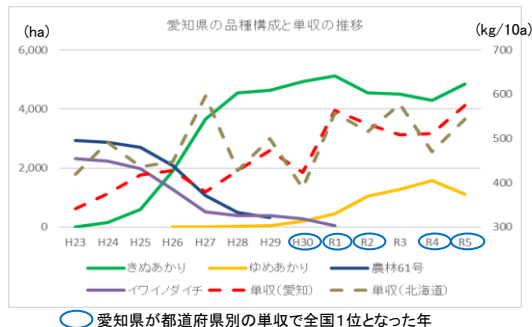
品種開発

きぬあかり(日本麺用)

- 従来品種と比べて、製めん適性が高く、多収で収穫期が早く、倒伏しにくい、湿害に強い品種を開発。

平成23年
栽培開始

小麦単収が増加



- 育種段階から愛知県製粉協会の協力を得ながら、実需者が使いたい品質の品種を開発。

ゆめあかり(パン・中華麺用)

- パン・中華麺に適した硬質の品種を開発。
- 学校給食での地元食材活用に寄与。

実需者の需要に応じて、
「きぬあかり」、「ゆめあかり」の
生産量を調整



小麦 増産



技術支援

品種特性に適した施肥技術

茎立期の生育に応じて追肥量を増減
麦は肥料で穫る

生産者と指導機関の連携



<技術のポイント>

- 子実たんぱく質含有率の目標設定。
- 施肥体系の変更に伴う施肥量の増加
- 「きぬあかり」は生育状況に応じた追肥量を設定。

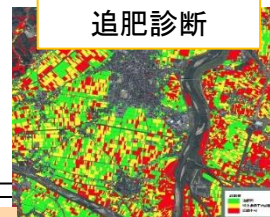
ICT利用の発育診断予測モデル

精度の高い栽培指導(JA、普及組織が活用)
栽培管理支援ツール(AgriLook)とZ-GISの連携

<技術のポイント>

- 1kmメッシュごとに発育ステージ予測が可能。
- 施肥、防除、収穫等の適期作業に寄与。
- 人工衛星やドローンのリモートセンシングによる生育状況に応じた追肥量の設定。

追肥診断



関係者との情報共有・意見交換

毎作、実需者を交えた意見交換や各地域との情報交換を実施し、栽培技術の向上に貢献

全国麦作共励会は、麦作農家及び集団の生産技術水準の向上と農業経営の改善を図る観点から、先進的で他の模範となる麦作農家及び集団を表彰し、その業績を広く紹介するものです。

収量の高位安定化、労働時間の軽減、上位等級麦の生産に努め、地域農業の中核農家及びリーダーとして活躍

農家の部 宮坂利樹氏(三重県亀山市)

宮坂利樹さん・龍翔さん

小麦生産の概要

麦の種類(品種)		作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	県平均単収 (kg/10a)
R4年産	あやひかり	24	476	357
R5年産	あやひかり	28	477	392
R6年産	あやひかり	28	383	242



三重県地図



経営の概要

- ・水稻19ha、小麦28ha、大豆27ha。大豆については小麦跡のほぼ全てのほ場で作付けを行い、農地の有効活用を図っている。
- ・麦作については、三重県特産品の伊勢うどん等の原料として県内製粉会社からの需要が高い「あやひかり」を全面積で栽培している。10a当たりの収量は、過去4年間の平均で432kg(令和6年383kg)と県の過去4年間の平均単収335kg(令和6年242kg)を大きく上回っている。

技術上の特色

- ・排水対策は、収量・品質向上を図る上で重要な基本技術と位置付け、稲刈り終了後、早期に額縁明渠を施工し、乾きやすいほ場づくりを行っている。機械作業だけに頼ることなく、頻繁にほ場を見回り手作業で補修を行うなど、栽培期間を通じて排水能力が維持されるよう取り組んでいる。
- ・労働時間の軽減に向けて、ブロックローテーションにより麦の団地化を進め作業時の移動時間短縮を図るほか、赤かび病の防除はドローンを活用することで省力化を図っている。その他にも、収穫後は自家乾燥を行うことで、収穫作業の効率化、刈遅れの回避につなげている。